

山西省忻州市九原崗壁画墓の建築図と中国北朝の建築

李陽浩 (大阪歴史博物館)

はじめに

- ・古代東アジアにおいて、中国の建築的特質が朝鮮半島や日本に多大な影響を与えたことは改めて述べるまでもない。それぞれの建築的特徴は中国建築との「距離」から形成されたといっても過言ではなく、各国・各地方における特徴を明らかにするためには、中国建築からの影響の内実を知ることが重要である。
- ・そのような比較・検討の前提となるのが、中国建築の姿とその特質といえる。ただし、中国では唐代以前の本造建築がほとんどなく、発掘調査によって知られる建築遺構についても、平面的な情報は得られるものの、そこから建物の上部構造を知ることが非常に困難といえる。そのような中、墳墓の発掘調査では、壁画や石槨、模型などに表現された建物によって、上部構造を推測できる材料が知られている。
- ・ここでは、近年知られた山西省忻州市九原崗壁画墓M1に描かれた特徴的な建築図(門楼図)の検討を中心に、壁画や石槨、模型、発掘遺構との比較などを通じて、中国北朝の建築的特徴について瞥見することにした。

1. 九原崗壁画墓 M1 の建築図をめぐって

(1) 九原崗壁画墓M1の概要

- * 九原崗墓群(忻州市級文物保護単位)は山西省忻州市に位置し、現在5基の墳丘墓が確認されている。そのうち、2013~2014年度にかけて、九原崗壁画墓M1の調査が行われた。
- * 現存する封土は不規則な円形で、直径6.5~10.0m、高さ4.2m。版築によって構築されており、版築層厚0.1m前後、撞棒跡の直径が0.1m。
- * 九原崗壁画墓M1傾斜式墓道を持つ単室磚墓で、埋葬施設は、墓道、羨道、墓室からなる(全体の長さは41.2m)。いずれも表面に白灰(漆喰)を塗り、壁画を描く。
 - ・傾斜式墓道は、長さ31.5m、上部幅3.5m、底部幅2.5m、北端の深さ6.47m、傾斜角15度。東西両壁が階段状になっており、長方形の土坑を掘ったのち、両側に日干し煉瓦を積み上げて構築。
 - ・羨道は、長さ3.0m、幅1.86~1.95m、高さ3.0m。南端に石門を設け、その上に半円形の石門額が残る。その上に日干し煉瓦で積まれた牆壁(報告書では門牆とする)があり、建築図を描く。
 - ・墓室は、平面が辺長5.85mの弧辺方形で、ドーム式天井の高さ9.3m、磚積壁体の厚さ0.45m。地面に磚を敷き、棺床は日干し煉瓦を磚で包んだもの、金箔の痕跡がある棺板が残る。
- * 建造方法における特徴
 - ・墓道の両側が日干し煉瓦によって築かれている。
 - ・羨道前壁墓門上方に門牆を築き、門楼図を描く。
- * 年代と被葬者
 - ・墓誌が見つかっておらず、報告書では、墓葬形式や壁画内容、副葬品などから造営年代を東魏~北齊早期と推定する。また、被葬者を東魏~北齊の統治集団における重要人物とみなし、河北磁県湾漳壁画墓(北齊文宣帝高洋が墓主と推定される)との類似から、同程度の地位の人物と推定する。そのほか、九原崗北朝墓群を劉懿一族の共同墓地とし、九原崗壁画墓M1を劉懿墓とする見解もある[蘇哲2018]。

(2) 建築図（門楼図）の概要

* 羨道墓門上方の門牆正面に描かれる木造の門楼図

- ・高さ3.25m、幅3～3.3m。正面に門楼を描き、両脇に回廊を描く。

* 単層3間3戸門。寄棟造、本瓦葺（鴟尾、獸面鬼瓦）。木部は朱塗り。

- ・寄棟造門の類例：敦煌莫高窟172窟
- ・3間3戸門の類例：山田寺南門

* 墓門上方建築図（門楼図）というカテゴリー

- ・北魏陝西華陰楊舒墓（517年）、北周寧夏固原李賢夫婦墓（569年）、隋史射勿墓（610年）、隋潼關稅村隋代壁画墓（6c末～7c初）、唐李寿墓（631年）、唐昭陵長樂公主墓（643年）、唐懿德太子墓（706年）、唐韋洞墓（708年）、唐李憲墓（741年）、突厥モンゴルボルガン県オラーン・ヘレム壁画墓（7c）

(3) 建築図（門楼図）の特徴

* 建物の構成要素

- ・喻皓『木經』（北宋初）による家屋の構成
上分（梁から上＝小屋組）、中分（地から上＝軸組）、下文（階段＝基礎）

* 基礎（下文）

- ・前面道路からそのままアプローチすることから、城門にみられる「門楼」（それらは版築基壇からなる門道を持つ）ではなく、通常の「門」と考えられる。
- ・各柱間の前に磚敷きの通路があり、通路両脇に欄干が付く。基壇周囲に設置される一般的な高欄とは異なり、橋などの可能性も。

* 軸組（中分）

- ・二本の柱組、頭貫の位置・形態、人字形斗栱（中備）の変遷
- ・開く形式の肘木、重ねる形式の肘木：隋代陶屋・玉虫厨子
- ・中央間は閉じられた2枚扉、両脇間は開いた1枚扉：「半啓門」との類似

* 小屋組（上分）

- ・屋根形状：寄棟造、垂木形状は不明
- ・瓦の特徴：瓦釘、鴟尾、獸面鬼瓦

* 問題点（アンリアルなところ）

- ・透視図法の問題（組物、床など）、鴟尾の設置方法

2. 中国北朝の建築を探る

(1) 遺物から

* 石葬具（石棺・石槨・石室）

- ・北魏山西大同阳高尉迟定州墓（457年）、北魏大同雁北帰院磚室墓（宋昭祖夫婦墓、477年）、北魏大同智家堡墓（5c後半）、北魏山西大同云波路墓（5c後半）、北魏寧懋石室（527年）、北周史君墓（579年）、隋太原虞弘墓（592年）、隋李静訓墓（608年）、唐李寿墓（631年）、唐懿德太子墓（706年）、唐金乡县主墓（724年）、唐李憲墓（741年）
- ・北朝石槨の源流：高句麗との関係（集安太王陵石槨との比較）

* 建築模型

- ・固原彭阳新集1号墓（北魏）、長安県北朝墓M1（北朝）

* 石屋